

「微力だけど、無力じゃない」 「ひとかけらを、ひとつなぎに」

というコンセプトで、一人ひとりの力を合わせて、パズルのピースのようにバラバラになってしまったシリアをPeaceにしていきたいという想いを込めて、2016年にPiece of Syriaが生まれました。一人から始まった活動も、あなたに支えられて、少しずつ広がっていった、共に歩む仲間が生まれて、未来を紡ぐ子ども達に教育の機会を届けることができました。

あなたと共に、歩められていることに、感謝を込めて。



Special Thanks

【スタッフ】小林 郁乃、武田 祐輔、出野 爽香、中野 麻衣、中野 貴行

【イベントスタッフ】(東京)小宮 悠太、篠田 薫

(大阪)植林 良太、久保 浩、西森 佳奈、吉田 高徹

(福岡)相良 奈見、ハニ

【イベント共催】箕面市多文化交流センター

【後援】レンタルスペース「谷六Village」

アラビア料理レストラン「月の砂漠」

SALON, CAFE & BAR 「ToiToiToi(トイトイトイ)」

Samurai Cafe&Bar「土心」

【Special Thanks】

陣崎 草子(チラシデザイン)、高山 社(ロゴデザイン)

石富東、井上 麻衣子、上原 優紀、大宅 穂香、岡本 洋明、Jay Carnell、

倉永 真紀子、鈴木 理、田中昌子、谷川和也、千田ひかる、中田 知暁子、

花塚直明、Yuu Tsukinaga、山本 愛紗

And all of you...



Piece of Syria

検索

<http://piece-of-syria.org>

piece.of.syria@gmail.com



活動報告書
2017年3月

شكراً

ありがとう。

あなたのおかげで、
私は今、学校に行くことができます。



- First of all, I would like to introduce myself.

I am Osama Ajjan from Aleppo - Syria. I am 28 years old. Indeed, I am an educational coordinator and English teacher. In the beginning of the revolution, I had decided not to leave Syria like my friends, but to support children of Syria to complete their education process to build themselves. I have been volunteering around 3 years till now.

As I am a Japanese student, and have a very good relationship with Japanese people, I asked Japanese friends to collect some donations to do collect some for my kids. Some Japanese friends and the piece of Syria group decided to help the kids of Syria who are really interested in helping them to continue their education.

our plan
As we have an online foundation, we just finished the preparation of Aleppo branch, and now preparing the main office in Gaziantep, Turkey. Soon we will expand another branches in Syria. We are looking for registration in Turkey to be able to receive money legally to us.

最初に、自己紹介をさせていただきます。私はウサマ・アッジャンと申します。アレッポ出身のシリア人、28歳です。

本来、私は教育コーディネーターで、英語教師です。革命が起こってすぐ、私の友人たちと同じようにシリアを離れるのではなく、シリアの子ども達が教育を全うできるようにサポートをすることを決心しました。今まで約3年間、ボランティアとして続けています。

私は日本語を学ぶ生徒だったので、日本人の友人たちと、とても仲が良く、彼らに私の生徒たちのために寄付を集めてくれるようお願いしました。そして、子ども達が教育を続けられることに関心のある友人達や、Piece of Syriaの人たちが、支援してくれています。彼らに私の生徒たちのために寄付を集めてくれるようお願いしました。そして、子ども達が教育を続けられることに関心のある友人達や、Piece of Syriaの人たちが、支援してくれています。

今後の活動も継続的にするため、トルコのカズィアンティップ本部、シリアのアレッポ支部の準備を整えており、シリア国内にも別の支部を予定しています。また、海外の公的な機関からも寄付を受けられるよう、トルコで公式なNGOとしての認可を得られるための準備をしています。

I would like to thank all people and friend who have donated to our project and it would be much more appreciated.

Our new projects:

- Rehabilitation for cave and basement schools.
- Stoves and fuel for heating in the classrooms.
- Stationery for students.
- generators and fuel for light in the basement schools.
- financial rewards for volunteering teachers.

We did prepare a cave school and now working on others. these places are safe for student to attend their schools and these schools are located in the countryside of Aleppo and Idlib and trying to accept students who had forced to be out of Aleppo.

Currently, there are lots of student who were evacuated from Aleppo really need education. Finally, I do thank all donors who have donated and kindly ask them to keep supporting our kids to continue.

ご寄付くださった皆様に 心からお礼を伝えたいと思います。

本当に感謝しています。皆様からのお金は「地下や洞窟での学校の再建」「教室内を温めるストーブと燃料」「生徒たちの筆記用具」「地下の学校のための電球と発電機」「無償で協力してくれている先生たちへの謝礼金」として使わせて頂きます。

次に、私たちは、洞窟の学校を準備し終えて、次の校舎への支援を始めています。アレッポから逃れられざるを得なくなった生徒たちを受け入れるため、アレッポ郊外とイドリブ県で、安全に通える場所を選んでいきます。今現在、アレッポから避難している子ども達の多くが本当に教育を必要としています。



最後に、私たちの子ども達が教育を続けられるように、私たちをご支援して下さった皆様に改めて感謝をお伝えいたします。

Representative of A Little Help Is Enough /
Osama Ajjan

シリア国内への教育支援

先生達のお給料

無償で働く先生達32人に
謝礼金(50\$/1人) **1600\$**



電気と太陽電池

地下に学校を作ったため
2500\$



その他、雑費

テストを作る際のプリンター、
送金代など **300\$**



学校の再建

空爆の危険の少ない
安全な場所へ **1400\$**



ストーブと燃料

冬の間、学習に集中
できるように **800\$**



皆様からのご支援のおかげで

シリア
国内の **100人**
の子ども達へ 教育の機会を
届けることができました。

مساعدتنا قليلا
A Little Help Is Enough

Dear's (Yusuke san, Rima san and Takaeaki san).
I wish you all the best.

Please find here the table of (how to use the money ?).

Rehabilitation for school	1400 \$
Salary money	2500 \$
5 stoves with 5 barrels of fuel	800 \$
Financial rewards for (32) teacher, 30 \$ for each	2160 \$
Operational expenses	300 \$
Total	6160 \$

We do appreciate your help and looking for what we talked about before and looking to see you here

日本での活動について

リターン作成費

商品の売り上げは
次回の支援に **20万円**



●Readyfor手数料 20万円 ●雑費(報告会会場費など)5万円

航空券代(一部)

トルコで
今後の打ち合わせ **10万円**



●リターンのために作ったグッズですが、ロット数が増えても経費がそれほど大きく変わらなかった為、多めに作成し、イベントやネットを通して販売を行ない、利益を次回の支援へ使わせていただきたいと思います。

●現地協力者のウサマさんとトルコで会議を行いました。その移動にかかった交通費を、一部補填させて頂きます。トルコだけでなく、ギリシャ・レバノン・イタリア・ドイツの難民として生活するシリアの人たちを訪れてきましたので、そこで見聞きしたメディアが伝えない事柄について発信していく事で、還元させて頂きます。

●2017年1月2月で東京・大阪・京都・福岡で開催した報告会では、100人以上の方々にご参加いただき、ご支援者以外の方々にも広く、シリアの昔と今、私たちの活動についてお伝えすることができました。会場費を補填させて頂き、新たに生まれた利益を、次回の現地支援のために使わせていただきたいと思います。

今後の活動について

今後も継続して、ウサマさんの支援する学校へのサポートと、
日本国内での平和教育活動を続けていきます。

現地での自立した活動のサポート

2016年12月シリア国内への教育支援を行なうウサマさんと、トルコ南部ガズリアンティップにて、今回の支援の内容と今後の活動について相談してきました。

ウサマさんは現在、シリア北部にある4つの学校を支援しています。2つはジャバルアルホス地区、2つはアレppo郊外です。私たち以外にも、彼の活動を支援している個人やグループはありますが、トルコからの正式なNGO認可を受けていないため、大きな規模の助成金や寄付が受けられない現状にあります。

ウサマさんが自立した運営を行なうために、NGOとして認可される環境を整える資金提供を検討しています。教育が受けられない子ども達が限り、活動が継続できるように後方支援を行ないます。この資金のために、マンスリー会員制度を現在、構築中です。また後日、連絡をさせていただきますので、是非、目を通していただければ幸いです。



トルコでウサマ氏と会議



空爆で破壊された学校(支援前)

1000円=1ヶ月の教育機会

1000円で、先生の給料・子ども達の勉強道具の1ヶ月分に相当します。そして、子どもたちは学校に通えなくなり、3年以上の月日が経つと、学校に行くことを嫌うようになってしまうそうです。シリアの平和のため、復興のための主役となる次世代の子ども達が、「スキマの世代」とならないために、継続的な支援を行なっていきます。



シリアから学ぶ平和の大切さ

「シリアが元々、どれほど豊かな国だったのか、戦争の前も後も、どんな素晴らしい人間性の持った人たちなのかを伝えることで、平和の大切さについて気付ききっかけになってほしい。」

その想いを発信するために、講演・写真展・動画作成などを行なって参りました。この活動も継続していきます。あなたの住む場所でも、企画したいのご希望がありましたら、是非ご連絡のほど宜しくお願い致します。



写真展とトークイベント

「世界を変えるのは、
いつもたった一人の想いから。
そして、その一人に、誰もがなれる」

僕がシリアでの協力隊活動を終えて日本に帰ってくると、日本を離れた2年前にはなかったスマートフォンが普及し始めていました。それからわずか5年後、西アフリカに行った時も、難民となったシリア人を訪ねた時も、皆がスマートフォンを持っており、セルフィーを撮り合ったり、遠く離れた家族と無料のテレビ通話をしたりしていました。**ステイブ・ジョブズという一人の人間のアイデアが、想いが、広がって、世界を変えたのです。**

僕がこのクラウドファンディングを始めてすぐ、Facebookを通じて、アラビア語でメッセージが届きました。「覚えてるかい?アルファラット村で学校の先生をしていたアフマドだよ」と。僕が最も仲良くしていたブトゥーレー家の親戚であり、活動でも生活面でもすごくお世話になった村の人でした。「もちろんだよ!」と返事し、彼が無事であることを心から安堵しました。

その村がISに占領されていたのを知っていたからです。

少年との奇跡の再会

2016年8月、ISの占領から解放された後、アフマド先生は村に戻ったのですが、彼の弟がレバノンにいることを教えてもらったので、レバノンに行きました。そして案内してくれたのは、村の友人達。その中には、ブトゥーレの弟がいたのです。僕より小さかった小学生の男の子は、僕より背が高くなり、レバノンで家族のために出稼ぎをしている青年となっていました。

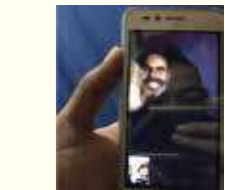
彼は携帯で村に電話をかけ、シリアの村に住む彼の家族とテレビ電話をし、懐かしい声を、顔を見せてもらいました。**ブトゥーレも大学生になるべく、受験勉強中とのことでした。**家族みんなも、無事に暮らしていたのです。言葉にならない感情に胸がいっぱいになりました。

活動が直接、この奇跡の再会を導いたのかはわかりませんが「何もなかった」という選択の先に、アフマド先生が僕のことを知っていたとも思えないのです。

一人から始まった小さなプロジェクトは、その想いを共に広げてくださった皆様のご協力のおかげで、100人のシリアの子ども達が通う学校の再開を手伝うことができました。ひとりでは何もできないかもしれませんが、すべては一人から始まります。



ブトゥーレの弟。2010年→2016年



彼と会話するシリアに住む父親